

関西菌類談話会会報

1998年12月 No. 21 (増刊号)



目 次

表紙「カンゾウタケ」	山田 弘	1
オオコゲチャイグチによる中毒例	磯部守邦	2
江戸期「食物本草」記載の毒菌から	奥沢康正	3
森本養菌園の歴史と現在	編集部	5
オオオニテングタケ	平山吉澄	8
1996年のきのこ展に京都市内の公園から採集されたツキヨタケが光った	下野義人	10
関西菌類談話会会則		12
1996年度活動の記録		13
表紙によせて、編集後記など	編集委員会	22

オオコゲチャイグチによる中毒例

磯 部 守 邦

オオコゲチャイグチ *Boletus obscureumbrinus* Hongo は、時には 20 cm を超えるほどの大型のイグチで、主として夏季にシイ・カシ林の地上に発生する。私たち数名がこのきのこの幼菌を採集し食したところ 12 名中 5 名が中毒した。100% 中毒するわけではないようであるが、ほぼ間違いなくこのきのこのが原因であると思うので、参考になればと思い報告する。

採集日：1995年 8 月 13 日

採集場所：兵庫県宝塚市（阪急電鉄宝塚線中山駅→清荒神駅までのハイキングコース。採集した個体は、ほとんどが幼菌で傘の直径は 5~7 cm、全体の高さは 8~10 cm、柄の太さは下方の太いところで 3~5 cm であった。縦に切ってみると肉は純白で虫の食跡はなかった。幼菌なので管孔は浅くきれいであった。食べたのは以下の 7 家族 12 名である。なお、中毒しない家族もあった。最後の「8」はこの件とは別の参考例である。

食べた時の状況

1. 夫 (52歳), 妻 (51歳), 子供 (23歳)

夕食時 (7 時頃), 傘の直径 5~6 cm のものを 3 本, 管孔をとらずに (薄く切って) バター炒めにして食べた。味は甘い感じがして美味であった。夫だけ缶ビール 1 本と日本酒 3 合を飲んでた。その夜は何事も無く経過。翌朝, 夫のみが夕方まで 3 回程度, 軽い下痢の症状を示した。腹痛, 吐き気, その他の症状はなかった。

2. 夫 (70歳), 妻 (67歳)

夕食時 (7 時頃), 傘の直径 5 cm 程度のものを 1 本, 管孔をとらずに (薄く切って) バター炒めにして食べた。よい香りがして美味しかった。二人で缶ビールを 1 本飲んだ。夫は食べてから約 3 時間後に下痢と嘔吐が始まり, その症状が一晚中続き大層体力が消耗した。症状は翌朝まで続いた。妻はなんともなかった。

3. 女性 (52歳)

夕食時 (7 時頃), 傘の直径 3 cm のと 5 cm のものを各 1 本, 管孔を取り除かないで薄切りにし, アルミ箔に包んで蒸し焼きにした。生ビールを中ジョッキ 5 杯ほど飲んで寝たが, 夜中に気分が悪

くなり, 全部嘔吐した。その後は何ともなかった。

4. 女性 (61歳)

夕食時に, 傘の直径 5 cm 程度のものを管孔を取り除かないで薄切りにしバター炒めにした。缶ビール 1 本を飲みながら食べたが, 夜中に下痢と嘔吐が始まり, 翌朝まで続いた。症状はかなり重かった。翌日は 1 日中軽い下痢が続いた。

5. 女性 (61歳)

夕食時に, 傘の直径 5~6 cm 程度のものを 2 本, 管孔を取り除かないで薄切りにしバター炒めにした。缶ビール 1 本を飲みながら食べたが, 夜中に下痢と嘔吐が始まり, 翌朝までひどい症状が続いた。翌日は 1 日中下痢が続いた。

6. 夫 (62歳), 妻 (60歳)

夕食時, 傘の直径 5 cm 程度のものを 1 本を薄切りにし, バター炒めにして食べた。管孔は取り除いておいた。アルコール飲料は飲まなかった。二人とも異常はなかった。

7. 夫 (70歳), 妻 (70歳)

夕食時, 傘の直径 6 cm 程度のものを, 管孔を取り除いて薄切りにしバター炒めにして食べた。2 人とも缶ビール 1 本と日本酒を 1 合程度飲みながら食べたが, 当日も翌日も全く異常はなかった。

8. 女性 (73歳)

この女性は, 近くの山 (大阪府豊能郡余野のあたり) で, 何回もこのオオコゲチャイグチを採って食べているとのことである。酒類は飲めず, 管孔は取り除いておくという。何回食べても下痢など全くしないとのことである。

江戸期「食物本草」記載の毒菌から

奥 沢 康 正

我が国の江戸期に於ける庶民達の毒菌に対する知識はどの程度のものであったろうか。江戸期書物から渉猟し、以下の文献に納められた記事を書き、表1、2にまとめた。表1の各項目につき考察を加えたい。

江戸期毒菌に対する情報は収集文献を見る限り、やはり中国書の影響を大きく受けている。中国書に記載されている宋時代からの毒菌を「夜中に光る茸」や「爛しても虫のいない茸」とする説

は、全て採集文献に記載されており、その他の毒菌の鑑別(1~16)や解毒法(17~22)も、ほぼ中国書と同様の記載が見られ、我が国固有の毒菌鑑別法を見ることは極めて少ない。

表1より毒菌の発生場所及び季節を見ると、(項目1-4)「食物本草(和刻版)」、「食物摘要」では茸の殆ど全てが毒菌の如く記載されている。毒菌鑑別を見ると項目5-9の内の項目7、8には茸の傘や、ひだに「毛」があり茎に「紋」の見ら

表1 キノコが発生する場所と毒

項目	キノコの性質、毒とその処方箋	採 集 文 献							
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	田・野に発生する茸				○				○
2	山僻に発生する茸	○							○
3	樹や地上に発生する茸			○					
4	夏秋に発生する茸	○	○	○	○	○			○
5	夜中に光る茸	○	○	○	○	○	○	○	○
6	茸を採った後、色の変する茸				○		○	○	
7	上に毛あり下に紋無し				○	○		○	○
8	仰ぎ巻きて赤色なる茸				○	○	○	○	○
9	爛しても虫のいない茸	○	○	○	○	○	○	○	○
10	煮ても熟さない茸	○	○	○	○	○			○
11	煮ても人の影を照らさない茸	○	○	○	○	○		○	○
12	飯粒と共に煮ると飯粒が黒くなる		○	○	○	○		○	○
13	生姜の屑と飯粒を入れて煮ると黒くなる								○
14	楓の木に生える茸は笑いが止まらない	○	○	○	○		○		○
15	桑・槐・楮・榆・柳以外の雑木に発生したキクラゲは風を動かし痲疾を發し経絡を損ず。 同上。痔・脚氣を生ず		○				○	○	○
	同上。肋骨下急に経絡背腫を損じる	○					○	○	○
16	多食すると氣を動かし病を發す	○							
17	地漿を飲ます	○			○	○		○	○
18	冬瓜のつるの汁				○		○	○	
19	糞汁を飲ます				○	○			
20	甘草湯				○				
21	黒豆の煮汁を飲ます				○				
22	酒を飲ます								○

採集文献 ①宣禁本草, ②薬性本草約言, ③食物本草(和刻版), ④食物摘要, ⑤遂性雜記, ⑥食物和解大成, ⑦庖厨備用倭名本草, ⑧食療正要

表2 毒菌の特長と毒性

名 称	特 長 ・ 毒 性	記 載 書
蕈菰蕈 (ヒラタケ) 家蕈 (漢名)=香蕈	蕈黏者苦者有毒, 銀の箸を用いると緑色に变ず 柵木にも生ずるが毒ある木に生ずるは採らず	饌 書 重修本草綱目啓蒙 甲斐国志
天草蕈=ヒラタケ 天蕈 鬼筆=キツネノエ (カキ) フデ	ブナの木に生ずるは毒有り 味淡甘, 美しくはなく小毒有り, 食しない事にこした事はない 皆毒なり 湿陰に発生するイクチは毒 マツタケの毒に当たると酔う	甲斐国志 和漢三才図會 重修本草綱目啓蒙 本朝食鑑 本朝食鑑
土菌 (ツチタケ) 見られない珍しい茸は禁 地茸=地皮 初茸 黄蕈=イクチ 紅菰=ベニタケ 猪茸=イノシンタケ=草茸 椎茸	土より生ずる菌蕈類を初めて食するのは禁 湿陰より生ず, おそらく毒有り。人食すべからず ビタがなく色が不鮮明の初茸を食すると, たちまち死す 管孔が蜂巢の様なイクチは毒有り。食すべからず 陰雨の前夜や湿地に生えるベニタケは毒 猪が好んで食する故毒有り。人食すべからず ブナの木に生ずる物毒なり, 木耳等木によりて毒のある 場合と同じ	庖厨備用倭名本草 庖厨備用倭名本草 大和本草 本朝食鑑 和漢三才図會 本朝食鑑 和漢三才図會 大和本草
蛇茸	ハツタケに似ているがヒダが無くヒダに“紋”のない物は 皆大毒なり	和漢三才図會

れない茸, 傘が反り返り赤色の茸を毒菌としている。筆者の考えでは, 後者はベニテングダケを示しているように思える。

次いで茸の摂食時の観察から毒菌鑑別を見ると, 項目9-13の内項目10, 11等では茸を煮た際に具体的にどのような所見をもって毒菌と判定するのか困難な記載ではあるが, 筆者が考えるには消化不良の茸, (煮ても形の崩れない茸, 煮汁にした際非常に混濁した煮汁となる茸等)を総称したのではないかと思う。

項目12-16は文献によりマツタケ, キクラゲ, ヒラタケ, シイタケ, 早松, 松露等の数種の茸類が個別に記載されている中から収集した項目である。特にキクラゲ, ヒラタケにこれ等の項目を見る。「食用簡便」「公益日用食性能毒」「食療正要」「食物和解大成」「本朝食鑑」に表1の様な記載がある。特に「食用簡便」にはマツタケの料理法による中毒例が詳細に述べられている。その他の書「食品国家」を含め多くの文献で茸類の多食を禁じている。

「公益日用食性能毒」には中風, 脹満, 嘔吐を伴う翻胃, 痿證, 黄疸, 癰疽, 瘡廊漏下瘡丹毒, 癩癧(るいれき)に菌(クサビラ)は禁食として記載されている。禁食については, 疾病に対しこれを予防したり治療を促進したりする為にある種の食物を選定し, これを好物とし, 又これを禁制する場合, 禁物(食禁)として書かれた書物は平安朝時代から見られる。

そして江戸期, 好物と禁物を述べた書の中で「本朝食鑑」はその代表的な専門書でもある。菌は江戸時代以前より, 好物よりも禁物として記載された医学書が多数見られる。なお解毒法について項目17-22の内の項目17, 19等は中国, 朝鮮の古医学書にもよく記載されている。「冬瓜のつるの汁」が解毒法の一つとされるのが, 我が国特有であるかについては今後の調査としたい。以上の江戸期の書物より毒菌についての情報をピックアップしたが, 特に「食物本草」「庖厨備用倭名本草」「食用簡便」の書は一考に値する。

森本養菌園の歴史と現在（2）

1996年3月16日 京都、伏見桃山
園主、森本 肇氏に聞く

取材 編 集 部

現在の森本養菌園

1996年（平成8年）3月16日、早春の昼下り、佐々木久雄編集長と二人で、森本養菌園（元森本栽培園）を訪れた。明るい陽射しの中、庭で遊ぶ幼ない孫を、やさしい目で見守るおじいちゃんの、ホノボノした空気で満たされていた。その「おじいちゃん」が、森本彦三郎さんの長男、肇さん（80才）であった。何度となく、談話会の集まりでお顔を拝見しているが、親しくお話しをお聞きするのは初めてであった。

早速、通された建物は六畳ほどの資料室であった。中央に歴史を刻む大きな木製の机があり、壁面には頑丈な鉄製の大金庫があった。その囲りの棚には、60年余りに栽培された、エノキタケ・マンネンタケ・マッシュルーム・フクロタケ等々

が、びん詰にされ保管されていた。そして、彦三郎さんの念願であったアメリカに輸出したマッシュルーム缶詰があり、本物に手をふれて感激した。この缶詰が、紀ノ国屋を通じてアメリカの進駐軍からの大量注文を受ける切掛となったものである。また、竹かごに盛られた、プリプリとしたマッシュルームの写真や、宮内庁御用達の看板、それに、昭和11年に『草菇の人工栽培装置』で認められて、帝国発明功労表彰会より名誉金牌を受賞した時の表彰状等、『森の妖精』で読んだ数々の宝物が目の前に静かにそこにあった。肇さんと向い合い、本物を手にしながら、大正から昭和の時代のお話しを拝聴していると、肇さんを通して、彦三郎さんとお会いしているような錯覚に落入了。



写真9 肇氏、商談室の前



写真11 資料室（佐々木氏）



写真10 マッシュルーム、エノキタケ、マンネンタケかん詰



写真12 キノコが保管してある資料室の棚



写真13 表彰状 (名誉金牌)

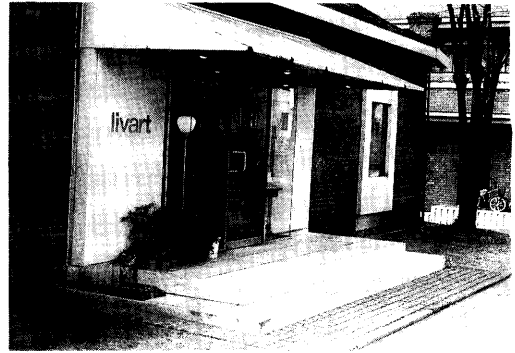


写真15 第一栽培舎 黒レンガ

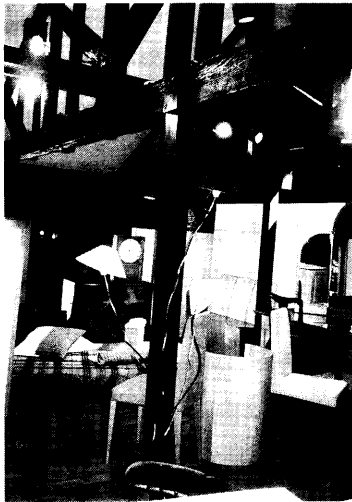


写真14 livart 室内 黒レンガ



写真16 第二栽培舎 赤レンガ (肇氏と佐々木氏)

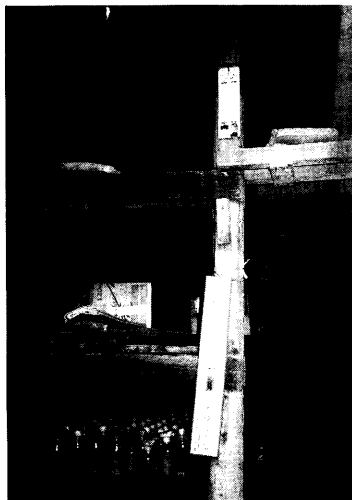


写真17 第二栽培舎 棚, ビン, 温度計



写真18 地下研究室出入口

また、貧困で苦悩する農山村の人々の手助になったエノキタケの人工栽培法。苦心を重ねても実らぬ実験に、一度はあきらめ、シイタケ栽培の研

究を始めたという経緯を経ての大発明である『エノキタケの鋸屑 (おがくず) 栽培法』。妻、英代さんが地下の研究室から飛び出した時の、「あな

た！エノキタケが生まれましたよ！」と叫んだ声がタイムスリップして聞こえて来そうな気分だった。

肇さんのお話しの中に、戦後のエノキタケのおがくず瓶栽培のびん1本分から、5つのエノキタケの束を作り、大阪の天満の卸市場に売りに行った時、その当時は一束で250円、つまり1びん分で1,250円になったという。当時の小学校の先生の月給が、3,000円程度だったそうだから、いかに貴重な商品だったかが伺えて、大変興味深いお話しであった。

また、彦三郎さんの故郷、和歌山県には粘菌の研究等で有名な楠方熊楠氏がおられた。きのこについての教えを請うために、彦三郎さんは5～6度も訪問されたというお話しも拝聴した。しかし、なぜか一度も会えなくて、残念な思いをされたようだったという。

お金を節約するために、赤レンガより安上がりなコークス入りの黒レンガで建てた第一栽培舎は、表通りに面し、現在はオシャレなインテリアの店に変ぼうしていた。アメリカやフランスの三段式を、六段にしたという彦三郎さんの考案した栽培棚はなくなっていたが、当時（1922年大正11年完成）の柱を生かしたアンティークなムードの部屋（売場）に改装され、「livart・リブアート」という名前のお店になっていた。経営者は、当時の森本農園でアルバイトとして働いていた学生さんで、これが「縁」というものか、と感心した。

第一栽培舎より一年後に建てられた赤レンガの第二栽培舎は、当時（1923年大正12年完成）のままの姿で保管されており、赤レンガの変色の様子を見て、つくづく年月を感じた。古びた板戸を引き開けると、『森の妖精』で見た丸太と板で無駄なく空間を生かした栽培棚が目に入った。うす暗いそのスペースには、仕事を終えた安堵感と、何かしら淋しい雰囲気漂っていた。まるで、昔に映画で観た炭坑の穴の中のような、せわしく働く人々の姿が肌を感じられた。棚のあちこちには、当時びん栽培に使われていたおがくずの詰ったままの小びんがあった。のぞいてみると、なんと菌糸が見えている。当時の生き証人のような気がした。その横の1本の柱には、当時のままに温度計がぶら下がっていた。大変むづかしかった温度調節をする為に苦労を重ねていた彦三郎さんと妻の英代さんが、この温度計を何万回、いや何百万回見たのだろうか。今、その同じ温度計を自分がのぞいている。時間を越えて、彦三郎さん達と同じひ

と時を過しているように思えた。

この二つの栽培舎の中で、彦三郎さんと英代さん、そして長男の肇さん達は土と戦い、温度と湿度に悩み、苦しみ、どれほどの汗を流したのだろう。そして、彦三郎さんが無念の死にいたる原因になった落下事故が、この赤レンガの栽培舎で起きたことをお聞きし、最後までこの栽培に命を捧げた人だったと思った。

彦三郎さんは18才の若さで、単身アメリカ・フランスへと旅立ち、企業秘密とされていて教えてもらえなかった技法を苦勞して修得した。帰国後、成功した彼は惜し気もなく技法を公開し、希望者には親切丁寧な指導までした。そして、今日のきのこ産業の基礎となる、『鋸屑（おがくず）人工栽培法』の大発明は人助けのための研究だったのである。

今日、いつでも美味しいきのこが食べられるようになったのは、彦三郎さんの人生を土台にして、成し得たと言っても過言ではない。

自分の信念を貫き通した彦三郎さんの生涯、妻の英代さんとの助け合い、励まし合った夫婦愛に、深い感動を覚えた。今回の取材のチャンスを与えて下さった、森本彦三郎さん、陰で支えた妻の英代さん、父の後を引き継いだ長男の肇さん一家に、きのこ愛好者として、心から感謝申し上げます。

また、（8年歳月を費して）きのこ一筋にかけた森本彦三郎氏の生涯を『森の妖精』としてまとめられた著者の吉見昭一氏には、本文の引用を許可していただきました。厚く御礼申し上げます。

取材訪問者・編集部

編集長 佐々木久雄

編集委員 佐野 修治

参 考 資 料

- 1) 吉見昭一（1979）：森の妖精—キノコ栽培の父—・森本彦三郎・偕成社。
- 2) 上田俊穂（1972）：マッシュルームの栽培園をたずねて。Nature Study 18(3) 大阪自然科学研究会（現大阪市立自然史博物館友の会）会報。
- 3) 森本彦三郎（1923）：フランス松茸・和洋料理の菜。
- 4) 森本彦三郎（1928）：鋸屑人工栽培法・なめこ・ひらたけ・なめ茸（榎茸）。
- 5) 森本 肇、浦山隆司（1961）：西洋まつたけ（マッシュルーム）の栽培法。
- 6) 森本 肇、浦山隆司（1962）：ふくろたけ（支那しめじ）の栽培。

⑩ No. 3～6は、森本養菌園提供

オオオニテングタケ

平山吉澄

WANTED MUSHROOM

きのこの観察をされている方で、初めて見るきのこに出会って、感激された方は多いと思います。そして、採取したきのこの名前が手持ちの本にも載って無くて、又、知人に尋ねても分からない、という経験をお持ちの方が多いと思います。

私自身も、最初の出会いは感激するのですが、名前が付かない同じきのこを見るたびに、何となく、もやもやした気分になり、「ちゃんとした名前前で呼びたい、そしたらスッキリするのに…、なんでこんなきのこが本や図鑑に載って無いんや?…」そして「なんでやねん!!」と、ついつい一人“つつこみ”を入れてしまうのは、私だけでしょうか。

そんな名前の付かないきのこ達の中で、最大級のものが、兵庫県の竜野市と姫路市で観察し続けているテングタケ属の一種でした。

シロオニタケモドキに似た大型のきのこで、特有の臭いがあり、柄の基部が深く地中へ続いている。スライド大会で「こんな採れています。教えてください!」と、発表したこともありました。

発生経過

このきのこに、念願の名前が付きましたので、以下に、その経過をご報告致します。初めての採集は、1989年7月、竜野市郊外の山中で、マツ混じりのコナラ林でした。

山で見た時は、「見覚えの無いきのこだが、立派なきこのなので、図鑑でも調べればすぐに分

かるだろう。」と簡単に考えていました。ところが本で調べても、きのこ仲間に尋ねても、まったく名前が分かりません。ここからが「なんでやねん!!」の始まりでした。小さな、特徴のつかみ難いものなら、「まあ、いいか…自分の力では、どうしようも無い、見なかったことに…」と、諦めるのですが、「こんな大きな、立派なきこのに名前の無い筈がない!!」と、思っていました。

ところが、翌年、兵庫教育大学で本郷先生にお会いする機会があり、期待して、この乾燥標本を見て頂いたのですが、「分かりません。不明です!」と、あっさり言われたのです。おもわず「ええー、本郷先生でも…」と、驚いてしまいました。このとき、「きのこの分野には、まだまだ未開拓な所が多いんだなあ」と、つくづく感心してしまったことを覚えています。

以後、幾度も、このテングタケ属の一種を観察してきましたが、1995年には、新たに姫路市でも大量に発生する場所を見つけました。1995年には、7月から9月末迄通算で、約100個体余り発生したので、色々な状態が観察出来、沢山の写真も撮影出来ました。そして、スライド大会で発表させ

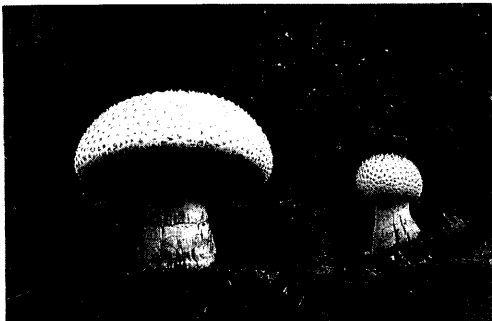


写真1



写真2

て頂きましたが、やはりテングタケ属の一種でした。1996年には、さらに大量発生し、竜野市で通算30個体、姫路市で通算200個体余りの発生を確認しました。傘の直径50センチの巨大な個体も発生したので、その根元を掘り下げ、地下の様子も撮影出来ました。発生地の環境は二箇所ともマツ混じりのコナラ林です。こんなに大量の生産物を地上に発生させる地下の栄養は、きのこの菌糸だけでは貯蔵しきれないと思います。当然、コナラと菌根を結んでいて子実体を作る時は母樹から栄養をもらっていると推測出来ます。

解決へのきっかけ

1996年秋に、長野県開田村のペンション朴の木でのスライド会で、この巨大なテングタケ属の一種を紹介しましたが、そのメンバーの中に、後に、解明の手掛りを知らせて下さった村上さんがおられました。数カ月後、九州大分県の村上さんから電子メールが送られて来ました。「もしかして、鳥取県にある菌叢研究所の長沢さんが、新種として発表準備されている *Amanita* sp. と同じものかもしれないから連絡してみても…」という内容でした。長沢さんとは、以前、鳥取の観察会でお会いしたことも有り、分類に関するご活躍もお聞きしていたので、なかば諦めていた私には「上手くいけば名前が付くかも…」と期待が膨らんで来ました。

早速、長沢さんに連絡、標本と写真数枚、環境と発生データをお送りしたところ、しばらくして、以下の返事を頂きました。

「オオオニテングタケ、*Amanita grandicarpa*」と名付けて発表準備しているものが有ります。」
「写真は明らかにオオオニテングタケの特徴が示されていました。このきのこ、鳥取では未だ見たことが無く、今回の例を加えて分布地は山口、福岡、兵庫の3県となりましたが、従来はシイ林（ときにアカマツを混生）での発生でしたので、新たな発生生態に関するデータが加わりました。新種発表はこれからですが、種小名の *grandicarp* の意味は大型な (*grandis*) 果実、子実体 (*carpos*) の意です。」

読み終え、嬉しくて「ヤッター！感激！やっと名前と呼べる。」と、心の中で叫んでいました。



写真3

このきのこに出会ってから8年目にして、やっと、もやもやが解消したんですから、ほんとに、この時は嬉しかったです。私自身も観察会で、参加者の方から「どうしてこんな大きなきのこのに名前が付かないんですか？」と質問され、言訳のような説明をしたことも有りましたが、もう大丈夫です。

以上の問題解決までの経過を振り返って考えてみると、その時間だけでなく、関係した地点（地域）の広範なことに、驚かされます。電子メールを使えるようになってからは特に、距離に対する抵抗感が薄れて、遠くの人とでも手軽に連絡がとれるようになりました。これからは、今回の様な「こんなきのこ採れました。誰か名前を教えてください。」という場合、もっと手軽に、写真とデータだけでもインターネットや電子メールを使って、指名手配出来ればよいのに、と思っています。又、それに回答するメンバーやシステムが出来てきて、もっと早く解決出来る様になれば良いな、と願っています。

最後に、この報告を書くに当たり、長沢さんに御相談したところ、「少しでも早く、皆さんにお知らせして下さい。」との快い返事を頂きました。改めてお礼申し上げます。

1996年のきのこ展に京都市内の公園から採集された ツキヨタケが光った

大阪府立香里丘高校 下野義人

第6回きのこ展が1996年10月25日-27日に京都府立植物園で開催され、6000名以上の入場者があり、盛会のうちに終わった。そのきのこ展の野生きのこコーナーの暗箱にツキヨタケが展示された(写真1)。暗箱の覗き窓からみるツキヨタケは幻想的な光を放ち、多くの子供達に驚きを与えていた。光るきのことして京都新聞の夕刊にも掲載された。

そこで、きのこ展に展示されたツキヨタケが採集された場所および覗き箱作成の経緯について報告する。

1. ツキヨタケの発生場所

このツキヨタケは1996年10月19日から11月3日にかけて、JR京都駅近くの梅小路公園内の「命の森」の野積みされた丸太から発生したものである(写真2, 3)。

写真2にはツキヨタケの幼菌が、写真3には成熟したツキヨタケおよび柄にある特徴的な黒いシミが写っている。

ツキヨタケの発生は、京都市の北部の広河原や芦生から報告されているが、京都市中心部からの発生は、初めてである。

ツキヨタケが採集された梅小路公園の「命の森」は、1996年4月に完成したばかりのビオトープを目指した公園である。この森の目指すものを梅小路公園整備計画書から引用すれば、次のようになる。「梅小路の都市的条件のもとで、1ha程度のオープンスペースにおいて、できるだけ多様性が豊かで、できるだけ発展的ないし持続的で、できるだけ京都に関わりが深く、できれば多くの人に親しまれる、また親しまれるであろう種を含み、できれば多様性を損なう種の固体群密度を低く保った生物相を持つ生態系を育成する。」一言で言えば、京都周辺の森をそのままの状態に公園にすることである。そのために「命の森」に京都周辺に生育している樹木や草本を移植し、林内には枯れ木を野積みし、最小限の手入れで、できるだけ自然の状態に保とうとしている。

大都会にできたビオトープ「命の森」を、いろいろな生物群集の立場から生物相を明らかにする

ために、大阪府立大学農学部の造園学科の森本幸裕先生を中心に、[命の森モニタリンググループ](土壌生物、植物、水生昆虫、きのこ、ほ乳類班)の調査が1996年9月から始まった。菌類に関して

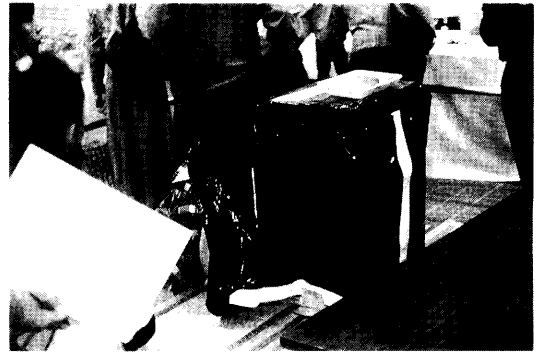


写真1



写真2

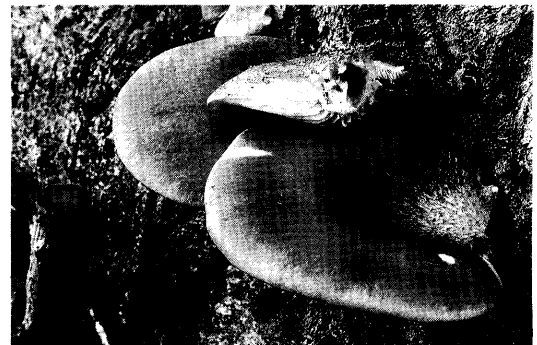


写真3

も生態系のなかで分解者として大切な働きがあることから「命の森」を調べる必要があると考えられ、きのこの調査を依頼された。そして岩瀬剛二、小林久泰、川向誠、下野義人の4人がきのこの班のメンバーになった。この森は、造成、植栽されてから半年しか経ていないので、発生する菌類は少ないと考えられる。しかし、菌類相を定期的に調査することによって発生する菌類の経時の変化、さらには森の成熟との関係等を明らかにできると考えている。

菌類の第1回調査を10月19日に前述の4人で行った。地上から発生していたきのこは腹菌類のヒメカタショウロだけで、多くのきのこはカワラタケ、オオチリメンタケ、ヒイロタケのような木材腐朽菌であった（いわゆる硬いきのこ）。その日の調査の終わり頃に「命の森」の一番奥の場所に着いたときに、一抱えもある丸太からツキヨタケが10数個発生しているのを見つけた。このきのこを最初にみたとき、カサの色、形、状態からツキヨタケ以外のきのこを思い浮かばなかったが、京都市内にツキヨタケが発生することが信じられなかった。

ツキヨタケは主としてブナから発生する。ブナは冷温帯の樹木で東北地方では低地にも生育しているが、京都市内のような暖かいところ（暖温帯）では標高の高い所にしか生育しない。そこで、今までにツキヨタケがどんな樹種から発生しているかを横山和正先生に問い合わせたところ、ブナ、イヌブナ、カエデ等から発生していることが分かった。しかし、京都市の緑化協会の職員によるとツキヨタケの発生した丸太は、市内御池通りの枯れたケヤキであるとのことであった。今までにケヤキからの発生は報告がないので、再度この丸太の由来を調べてもらったが、搬入した関係者が亡くなっていることもあって、はっきりしたことが分からなかった。そこで樹木の断面構造を調べておられる滋賀県琵琶湖博物館の布谷知夫氏に同定を依頼したところ、イヌブナであることが分かった。その後このイヌブナは京都府美山町から来たらしいことが明らかになった。

「命の森」のツキヨタケは、19日に発生していた丸太ともう1本の丸太の計2本から発生することが分かった。最初に発生した丸太から総計100個体以上の子実体を確認したが、太さは同じであるが長さがやや短いためか、2本目の丸太からは10本余りとやや少なかった。「命の森」のツキヨ

タケの発生時期は奈良県の大台ヶ原のブナ林に比べると、2カ月近く遅かった。丸太の状態から判断すると、1996年と同じように8月から9月にかけて雨が多く、気温が低い日が多い気象条件になれば、1997年も発生の可能性があると考えている。

2. きこの展で覗き箱を作った経緯

10月24日の午後にきのこ展準備のため植物園に行くと、例年より早くきのこのシーズンが終わったためか、予想以上に野外きのこが少なかった。今回のきのこ展は主催者が野生のきのこをすべて集めるのではなく、来園者がきのこを持参しそれを展示する、すなわち参加者主体のきのこ展を企画しているので、日を追ってきのこが集まると推測された。しかし、「最初の日に野外きのこの種数が少ないと寂しいなあ」と仲間内で話をしていところ、少し遅れて来た森本繁雄氏が展示してあるツキヨタケをみて、「きのこが光るので、覗きをしたら絶対受けるで」と話された。そこで植物園の方に頼んで早速覗き箱を作ってもらうことになった。そしてその中にツキヨタケを入れた。

短時間に作った簡単な暗箱であったが、非常に好評であり、順番を待つ人が出たほど人気があった。アンケートでも光るきのこの展示は良かったとの意見が多かった。

おわりに

この原稿はほぼ1年遅れになってしまった。会報に掲載されるのはたぶん1997年のきのこ展が終わった後になるであろう。1997年のきのこ展では、1996年の覗き箱の形や大きさを改良して設置場所も検討して、本格的な「光るきのこのコーナー」を設けることを計画されている。「命の森」から発生したツキヨタケが展示されているかどうか分からないが、いろいろな場所から多くのツキヨタケが集まり、光るきのこのコーナーを賑わせて、1996年以上の盛況を呈していると思う。

この秋に「命の森」では1996年に発生した種とは違った多くのきのこ（主に硬いきのこであるが多いが柔らかいきのこも出ている）が発生している。機会があればこれらについて報告したいと考えている。

最後に、「命の森」のきのこに興味を持っている方がいましたら、私の所まで連絡して下さい。一緒に調査をしましょう。他の調査班には若い方が多いので、きのこ班も若い大学生や大学院生の方を希望します。しかし、熱意があれば年齢は問いません。

関西菌類談話会会則

【名 称】

第1条 本会は「関西菌類談話会」(以下「本会」)と称する。英語名を KANSAI MYCOLOGICAL CLUB とする。

【事務局】

第2条 本会の事務局は、総務幹事の所属するところにおく。

【目 的】

第3条 本会はきのこ、かび、酵母など菌類に興味を持つ人が、菌類を通して自然に親しみ、菌類の調査・研究・利用・保護等のために、お互いに協力しつつ、知識・情報・技術等の交流をはかることを目的とする。

また、会員相互の親睦と菌類についての啓蒙を行う。

【事 業】

第4条 本会は上記の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 菌類の野外観察会・採集会
- (2) 菌類の同定または鑑定会
- (3) 菌類の同定・分類・生理・遺伝・利用等に関する講演会・講習会・研究会・研修旅行
- (4) 「関西菌類談話会会報」の発行
- (5) 菌類の分布調査・標本作製・分離・培養・資料などの作成と会員への配布
- (6) 他の関連団体との交流
- (7) その他本会の目的達成に必要な事業
- (8) 本会の事業年度は毎年1月1日より12月31日迄とする

【会 則】

第5条 本会員は菌類に興味を持つ個人および本会の目的に賛同する団体により組織する。

第6条 本会の会員は下記のように定める。

- (1) 通常会員 第15条(1)に定める会費を納入する個人
- (2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、第15条(2)に定める会費を納入する団体
- (3) 名誉会員 本会とくに功劳のあった者
- (4) 会 友 上記以外で本会が必要と認めた者

【入会および退会】

第7条 本会に入会を希望するものは、所定の入会申込用紙に必要事項を記入し、当該年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこととする。

また、退会する者は、その旨文書で本会事務局へ届け出ることとする。

【役員及び任務】

第8条 本会は次の役員を置く。

- (1) 会員1名 本会を代表し、会務を統括する。また、総会および役員会を召集し、その議長および書記を委嘱する。
- (2) 副会長2名 会長を補佐し、会長に事故ある時はその任務を代行する。
- (3) 総務幹事3名 事務局を担当し、本会の受付事務全般を行う。
- (4) 庶務幹事2名 庶務全般を行う。下記については分担する。
 - イ 採集会事務
 - ロ 集会事務
 - ハ 会員名簿および図書・備品管理
- (5) 会計幹事2名 会計事務を行う。下記については分担する。
 - イ 経理・現金出納事務
 - ロ 会費請求・領収事務
- (6) 運営幹事若干名 本会の事業の立案、実施を行う。運営幹事中に集会総括責任者、採集会総括責任者、会報編集委員長1名をおく。
- (7) 会計監査2名 会計事務の監査を行い、総会においてその結果を報告する。

【世話人および顧問】

第9条 本会運営のため必要に応じて世話人を置くことができる。

第10条 本会は必要に応じて顧問を若干名置くことができる。

【役員会】

第11条 役員会は会長の召集する会員を持って構成する。

【役員などの選出および任期】

- 第12条 (1) 会長は会員の推薦にもとづき、総会で出席者の過半数の賛成をもって選出する。
- (2) 副会長、その他の役員は会長が委嘱する。ただし、副会長は会長が必要とする場合のみ委嘱することができる。また、会報編集委員若干名を、会報編集委員長の推薦にもとづき、会長が委嘱する。
 - (3) 役員および世話人・編集委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - (4) 役員に欠員が生じた場合はその補欠をおこなう。ただし、補欠された役員の任期は前任者の残務期間とする。

【総 会】

第13条 総会は年1回会長が召集し、役員選出、予算、決算ならびに本会の事業実施上の重要事項について、出席者の過半数をもち議決する。

総会の議長および書記は会長が会員中から各1名を委嘱する。

会長が必要かつ緊急と認めた場合には、臨時に総会を開くことができる。

【経 費】

第14条 本会の経費は会費、寄付金、預貯金利息その他をもってこれにあてる。

【会 費】

第15条 本会の会費は下記のように定める。

(1) 通常会員 年額 2,000円。ただし、高等学校生徒以下は年額 1,000円とする。

(2) 賛助会員 年額 5,000円

第16条 会費は前納制とする。ただし、一度納入した会費は返還しない。

(1) 顧問、名誉会員、および役員会で認めた会員は会費を免除する。

(2) 会費を2年間納入しない場合は、退会したものとみなす。

第17条 講演会、採集会その他の集会において、

必要に応じて参加者から参加費を徴収し、必要経費にあてることができる。

第18条 本会の会計年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

【会 報】

第19条 (1) 会員には会報を無償で配布する。

(2) 会報編集委員長は、会報編集委員会を構成し、会報の編集を行う。

【付 則】

第20条 (1) この会則の改正および本会の事業実施上の改廃は、役員会で審議し、総会において出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(2) その他、本会則に定めのない問題は、役員会において処理し、総会に報告し承認を得る事とする。

(3) 本会則は昭和58年10月8日より施行する。
(昭和61年2月1日一部改正, 同日より施行)
(平成2年2月4日一部改正, 同日より施行)
(1990年2月3日一部改正, 同日より施行)
(1992年2月8日一部改正, 同日より施行)
(1993年2月6日一部改正, 同日より施行)
(1997年2月1日一部改正, 同日より施行)

1996年度 活動の記録

第335回例会 榎原神宮菌類観察会

日 時：1996年7月7日（日）曇り後雨

63名参加

場 所：榎原市榎原神宮境内（シイ・カンシ林）

待ち望んでいた観察・採集会とあって、近府県を中心に63名の参加を得て、にぎやかに行われた。小雨の降る絶好の(?)採集会日和で、91種が採集・同定できた。前週までの降雨量の多さから、豊作が期待されたが、大形のきのこに目がいき、小形の種は比較的少なかった。榎原神宮では今回で7度目の採集会であったが、21種が新たにリストに加わった。(荒井 滋)

採取品リスト

- | | |
|------------------------------------|-----------|
| 1 <i>Lentinus lepideus</i> | マツオウジ |
| 2 <i>Hygrocybe calyptraeformis</i> | アケボノタケ |
| 3 <i>Asterophora lycoperdoides</i> | ヤグラタケ |
| 4 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ |
| 5 <i>Clitocybe</i> sp. | カヤタケ属 |
| 6 <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 |
| 7 <i>Oudemansiella pudens</i> | ビロードツエタケ |
| 8 <i>Oudemansiella radicata</i> | ツエタケ |
| 9 <i>Marasmius maximus</i> | オオホウライタケ |
| 10 <i>Cyptotrama asprata</i> | ダイダイガサ |
| 11 <i>Amanita sychnophyramis</i> | テングタケダマシ |
| 12 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ |
| 13 <i>Amanita pantherina</i> 近縁種 | テングタケの近縁種 |

- | | | | |
|--|---------------|------------------------------------|-------------|
| 14 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>punctata</i> | オオツルタケ | 53 <i>Russula laurocerasi</i> | クサハツモドキ |
| 15 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i> | ツルタケ | 54 <i>Russula compacta</i> | アカカバイロタケ |
| 16 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i> | カバイロツルタケ | 55 <i>Russula rubescens</i> | イロガワリベニタケ |
| 17 <i>Amanita longistriata</i> | タマゴテングタケモドキ | 56 <i>Russula vesca</i> | チギレハツタケ |
| 18 <i>Amanita pseudoporphyria</i> | コテングタケモドキ | 57 <i>Russula amoena</i> | ムラサキカスリタケ |
| 19 <i>Amanita hemibapha</i> subsp. <i>javanica</i> | キタマゴタケ | 58 <i>Russula flavida?</i> | ウコンハツ? |
| 20 <i>Amanita rubescens</i> | ガンタケ | 59 <i>Russula virescens</i> | アイタケ |
| 21 <i>Amanita excelsa</i> | キリンタケ | 60 <i>Russula sororia</i> | キチャハツ |
| 22 <i>Amanita excelsa</i> 近縁種 | キリンタケの近縁種 | 61 <i>Russula cyanoxantha</i> | カワリハツ |
| 23 <i>Amanita spissacea</i> | へビキノコモドキ | 62 <i>Russula alboareolata</i> | ヒビワレシロハツ |
| 24 <i>Amanita</i> sp. | テングタケ属 | 63 <i>Russula rosacea</i> | ヤブレベニタケ |
| 25 <i>Leucocoprinus fragillissimus</i> | キツネノハナガサ | 64 <i>Russula</i> sp. | ベニタケ属 |
| 26 <i>Psathyrella candolliana</i> | イタチタケ | 65 <i>Lactarius vellereus</i> | ケシロハツ |
| 27 <i>Agrocybe cylindracea</i> | ヤナギマツタケ | 66 <i>Lactarius gerardii</i> | クロチチダマシ |
| 28 <i>Inocybe asterospora</i> | カブラアセタケ | 67 <i>Lactarius zonarius</i> | キカラハツモドキ |
| 29 <i>Cortinarius</i> sp. | フウセンタケ属 | 68 <i>Lactarius</i> sp. | チチタケ属 |
| 30 <i>Entoloma</i> sp. | イッポンシメジ属 | 69 <i>Cantharellus cibarius</i> | アンズタケ |
| 31 <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ | 70 <i>Cratellus cornucopioides</i> | クロラッパタケ |
| 32 <i>Strobilomyces confusus</i> | オニイグチモドキ | 71 <i>Polyporus squamosus</i> | アミヒラタケ |
| 33 <i>Strobilomyces seminudus</i> | コオニイグチ | 72 <i>Polyporus alveolarius</i> | ハチノスタケ |
| 34 <i>Austroboletus subvirens</i> | オオヤシャイグチ | 73 <i>Polyporus arcularius</i> | アミスギタケ |
| 35 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ | 74 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ |
| 36 <i>Gyroporus cyanescens</i> | アイゾメイグチ | 75 <i>Microporus subaffinis</i> | ツヤウチワタケモドキ |
| 37 <i>Gyroporus longicystidiatus</i> | クリイロイグチモドキ | 76 <i>Laetiporus sulphureus</i> | マスタケ |
| 38 <i>Phylloporus bellus</i> | キヒダタケ | 77 <i>Phaeolus schweinitzii</i> | カイメンタケ |
| 39 <i>Xerocomus nigromaculatus</i> | クロアザアワタケ | 78 <i>Coltricia cinnamomea</i> | ニッケイタケ |
| 40 <i>Pulveroboletus ravenelii</i> | キイロイグチ | 79 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ |
| 41 <i>Pulveroboletus viridis</i> | ヒメウグイスイグチ | 80 <i>Ganoderma lucidum</i> | マンネンタケ |
| 42 <i>Boletus reticulatus</i> | ヤマドリタケモドキ | 81 <i>Ganoderma applanatum</i> | コフキササルノコシカケ |
| 43 <i>Boletus violaceofuscus</i> | ムラサキヤマドリタケ | 82 <i>Scleroderma reae</i> | コニセシヨウロ |
| 44 <i>Boletus fraternus</i> | コウジタケ | 83 <i>Calvatia craniiformis</i> | ノウタケ |
| 45 <i>Boletus subvelutipes</i> | アメリカウラベニイロガワリ | 84 <i>Calvatia boninensis</i> | オオノウタケ |
| 46 <i>Boletus</i> sp. | ヤマドリタケ属 | 85 <i>Auricularia polytricha</i> | アラゲキクラケ |
| 47 <i>Tylopilus</i> sp. | ニガイグチ属 | 86 <i>Helvella crispa</i> | ノボリリュウタケ |
| 48 <i>Russula delica</i> | シロハツ | 87 <i>Peziza</i> sp. | チャワソウタケ属 |
| 49 <i>Russula nigricans</i> | クロハツ | 88 <i>Cordyceps annullata</i> | ヒメクチキタンポタケ |
| 50 <i>Russula nigricans</i> 近縁種 | クロハツの近縁種 | 89 <i>Nomuraea atypicola</i> | クモタケ |
| 51 <i>Russula densifolia</i> | クロハツモドキ | 90 <i>Xylaria perisicaria</i> | フウノミタケ |
| 52 <i>Russula foetens</i> | クサハツ | | |

第336回例会 宇治大吉山菌類観察会

日 時：1996年7月20日（日）雨天

37名参加

場 所：京都府宇治大吉山興聖寺境内林
（シイ林）

梅雨明けが早く、乾燥気味の大吉山ではキノコの収穫が危ぶまれた。その上台風の余波であいにくの雨天下での観察会となった。今回は同定の後、横山和正会長の「テングタケ科の毒性について」。吉見昭一先生「オニフスベ、その仲間あれこれ」。下野義人氏に「ベニタケ属の採集種について」をご講話いただいた。いずれも採集された種を資料としての解説で、会員にも好評であった。

(杉山信夫)

採取品リスト

- | | | | |
|---|--------------|---------------------------------------|---------------|
| 1 <i>Lentinus lepideus</i> | マツオウジ | 34 <i>Psathyrella</i> sp. | ナヨタケ属 |
| 2 <i>Lyophyllum decastes?</i> | ハタケシメジ? | 35 <i>Agrocybe cylindracea</i> | ヤナギマツタケ |
| 3 <i>Omphalina epichysium</i> | ヒダサカズキタケ | 36 <i>Naematoloma fasciculare</i> | ニガクリタケ |
| 4 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ | 37 <i>Pholiota</i> sp. | スギタケ属 |
| 5 <i>Laccaria</i> sp. | キツネタケ属 | 38 <i>Inocybe lutea</i> | キイロアセタケ |
| 6 <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 | 39 <i>Inocybe</i> sp. | アセタケ属 |
| 7 <i>Marasmius</i> sp. | ホウライタケ属 | 40 <i>Cortinarius</i> sp. | フウセンタケ属 |
| 8 <i>Marasmius androsaceus?</i> | オチバタケ? | 41 <i>Gymnopilus aeruginosus?</i> | ミドリスギタケ? |
| 9 <i>Marasmius crinisequi</i> | ウマノケタケ | 42 <i>Crepidotus mollis</i> | チャヒラタケ |
| 10 <i>Marasmius puru-preostriatus</i> | スジオチバタケ | 43 <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ |
| 11 <i>Marasmius purcherripes</i> | ハナオチバタケ | 44 <i>Phylloporus bellus</i> | キヒダタケ |
| 12 <i>Marasmius</i> sp. | オオホウライタケ近縁種 | 45 <i>Xerocoms chrysenteron?</i> | キッコウアワタケ? |
| 13 <i>Hohenbuehelia</i> sp. | ヒメムキタケ属 | 46 <i>Xerocoms nigromaculatus?</i> | |
| 14 <i>Oudemansiella</i> sp. | オオツエタケ | | クロアザアワタケ? |
| 15 <i>Xeromphalia campanella</i> | ヒメカバイロタケ | 47 <i>Austroboletus subvirens</i> | オオヤシヤイグチ |
| 16 <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ | 48 <i>Boletellus emodensis</i> | キクバナイグチ |
| 17 <i>Amanita pantherina</i> | テングタケ | 49 <i>Pulveroboletus auriflammeus</i> | ハナガサイグチ |
| 18 <i>Amanita gemmata</i> | ウスキテングタケ | 50 <i>Boletus subvelutipes</i> | |
| 19 <i>Amanita volvata</i> | フクロツルタケ | | アメリカウラベニイロガワリ |
| 20 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i> | ツルタケ | 51 <i>Tyropilus ballouii</i> | キニガイグチ |
| 21 <i>Amanita flavipes?</i> | コガネテングタケ? | 52 <i>Tylopilus</i> sp. | ニガイグチ属 |
| 22 <i>Amanita cokeri?</i> | ササクレシロオニタケ? | 53 <i>Leccinum extremiorientale</i> | アカヤマドリ |
| 23 <i>Amanita pseudoporphyrina</i> | | 54 <i>Russula crustosa</i> | ヤブレキチャハツ |
| | コテングタケモドキ | 55 <i>Russula japonica</i> | シロハツモドキ |
| 24 <i>Amanita rubescens?</i> | ガンタケ? | 56 <i>Russula mariae</i> | ニオイコベニタケ |
| 25 <i>Amanita virgineoides</i> | シロオニタケ | 57 <i>Russula densifolia</i> | クロハツモドキ |
| 26 <i>Amanita hongoi</i> | シロオニタケモドキ | 58 <i>Russula violeipes</i> | ケジョウハツ |
| 27 <i>Amanita spissacea</i> | ヘビキノコモドキ | 59 <i>Russula castanopsidis</i> | カレバハツ |
| 28 <i>Amanita perpasta</i> | オニテングタケ | 60 <i>Russula atropurpurea</i> | ウスムラサキハツ |
| 29 <i>Amanita</i> sp. | テングタケ属 | 61 <i>Russula rubescens</i> | イロガワリベニタケ |
| 30 <i>Limacella glioderma?</i> | | 62 <i>Russula amoena</i> | ムラサキカスリタケ |
| | チャヌメリカラカサタケ? | 63 <i>Russula virescens</i> | アイタケ |
| 31 <i>Lepiota</i> sp. | カラカサタケ属 | 64 <i>Russula rosacea</i> | ヤブレベニタケ |
| 32 <i>Agaricus essettei?</i> | ハラタケ属 | 65 <i>Russula</i> sp. | ベニタケ属 |
| 33 <i>Squamanita umbonata</i> | カブラマツタケ | 66 <i>Lactarius piperatus</i> | ツチカブリ |
| | | 67 <i>Lactarius volemus</i> | チチタケ |
| | | 68 <i>Lactarius corrugis</i> | チリメンチチタケ |
| | | 69 <i>Lactarius</i> sp. | モチゲチチタケ |
| | | 70 <i>Lactarius</i> sp. | ハツタケ近縁種 |
| | | 71 <i>Lactarius</i> sp. | チチタケ属 |
| | | 72 <i>Cantharellus cibarius</i> | アンズタケ |
| | | 73 <i>Cantharellus</i> sp. | アンズタケ属 |
| | | 74 <i>Clavurina amethystinoides</i> | |
| | | | ムラサキホウキタケモドキ |
| | | 75 <i>Sparassis crispa</i> | ハナビラタケ |
| | | 76 <i>Polyporus alveolaris</i> | ハチノスタケ |

- | | | | |
|---|---------------|--|--------------|
| 77 <i>Polyporus varius</i> | キアシグロタケ | 6 <i>Tricholomopsis decora</i> | キサマツモドキ |
| 78 <i>Polyporus badius</i> | アシグロタケ | 7 <i>Tricholoma saponaceum</i> | ミネシメジ |
| 79 <i>Microporus affinis</i> | ウチワタケ | 8 <i>Tricholoma psammopus</i> | カラマツシメジ |
| 80 <i>Cryptoporus volvatus</i> | ヒトクチタケ | 9 <i>Tricholoma muscarium</i> | ハエトリシメジ |
| 81 <i>Laetiporus versisporus</i> | ヒラフスベ | 10 <i>Tricholoma fulvum</i> | キヒダマツシメジ |
| 82 <i>Pycnoporus coccineus</i> | ヒイロタケ | 11 <i>Strobilurus ohshimae</i> | スギエダタケ |
| 83 <i>Trichaptum abietinum?</i> | シハイタケ? | 12 <i>Oudemansiella platyphylla</i> | ヒロヒダタケ |
| 84 <i>Trichaptum fuscoviolaceus</i> | ウスバシハイタケ | 13 <i>Mycena pura</i> | サクラタケ |
| 85 <i>Perenniporia ochroleuca</i> | ウズラタケ | 14 <i>Mycena osmundicola</i> | シロコナカブリ |
| 86 <i>Coltricia cinnamomea</i> | ニッケイタケ | 15 <i>Mycena haematopoda</i> | チシオタケ |
| 87 <i>Trametes versicolor</i> | カワラタケ | 16 <i>Mycena</i> sp. | クスギタケ属 |
| 88 <i>Fomitopsis pinicola</i> | ツガサルノコシカケ | 17 <i>Melanoleuca</i> sp. | コザラミノシメジ属 |
| 89 <i>Ganoderma applanatum</i> | コフキササルノコシカケ | 18 <i>Melanoleuca</i> sp. | オオザラミノシメジ? |
| 90 <i>Onnia vallata</i> | アズマタケ | 19 <i>Melanoleuca</i> sp. | ザラミノシメジ属 |
| 91 <i>Scleroderma reae</i> | コニセシヨウロ | 20 <i>Marasmius pulcherripes</i> | ハナオチバタケ |
| 92 <i>Scleroderma</i> sp. | ニセシヨウロ属 | 21 <i>Marasmius maximus</i> | オオホウライタケ |
| 93 <i>Lanopila niponica</i> | オニフスベ | 22 <i>Marasmius aurantioferrugineus</i> | カバイロオオホウライタケ |
| 94 <i>Gastrum mirabile</i> | ヒナツチガキ | 23 <i>Marasmius</i> sp. | ホウライタケ属 |
| 95 <i>Tremella foliacea</i> | ハナビラニカワタケ | 24 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i> | カレバキツネタケ |
| 96 <i>Calocera cornea</i> | ツノフノリタケ | 25 <i>Laccaria laccata</i> | キツネタケ |
| 97 <i>Calocera viscosa</i> | ニカワホウキタケ | 26 <i>Collybia peronata</i> | ワサビカレバタケ |
| 98 <i>Guepinia spathularia</i> | ツノマタタケ | 27 <i>Collybia maculata</i> | アカアザタケ |
| 99 <i>Helvella lacunosa</i> | クロノボリリュウタケ | 28 <i>Collybia dryophila</i> | モリノカレバタケ |
| 100 <i>Helvella macropus</i> var. <i>macropus</i> | ナガエノチャワンタケ | 29 <i>Collybia confluens</i> | アマタケ |
| 101 <i>Peziza</i> sp. | チャワンタケ属 | 30 <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 |
| 102 <i>Bisporella citrina</i> | ビョウタケ | 31 <i>Clitocybe odora</i> | アオイヌシメジ |
| 103 <i>Dicephalospora rufocornea</i> | ニセキンカクアカビヨウタケ | 32 <i>Clitocybe clavipes</i> | ホテイシメジ |
| 104 <i>Nomuraea atypicola</i> | クモタケ | 33 <i>Clitocybe</i> sp. | カヤタケ属 |
| | | 34 <i>Armillariella mellea</i> | ナラタケ |
| | | 35 <i>Amanita volvata</i> | フクロツルタケ |
| | | 36 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>alba</i> | シロツルタケ |
| | | 37 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>fulva</i> | カバイロツルタケ |

第337回例会 八ヶ岳山麓観察会

日時：1996年8月24日(土)～27日(日)

64名参加

場所：長野県諏訪郡原村

(カラマツ林・落葉広葉樹林)

採取品リスト

- | | | | |
|----------------------------------|----------|---|--------------|
| 1 <i>Schizophyllum commune</i> | スエヒロタケ | 38 <i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i> | ツルタケ |
| 2 <i>Pleurotus pulmonarius</i> | ウスヒラタケ | 39 <i>Amanita spreata</i> | ツルタケダマシ |
| 3 <i>Panus suavissimus</i> | ニオイカワキタケ | 40 <i>Amanita farinosa</i> | ヒメコナカブリツルタケ |
| 4 <i>Hygrocybe flavescens</i> | アキヤマタケ | 41 <i>Amanita esculenta</i> | ドウシントケ |
| 5 <i>Tricholomopsis rutilans</i> | サマツモドキ | 42 <i>Amanita</i> sp. | クロコタマゴテングタケ? |
| | | 43 <i>Amanita abrupta</i> | タマシロオニタケ |
| | | 44 <i>Limacella</i> sp.? | スメリカラカサタケ属? |
| | | 45 <i>Lepiota clypeolaria</i> | ワタカラカサタケ |
| | | 46 <i>Lepiota castanea</i> | クリイロカラカサタケ |
| | | 47 <i>Cystoderma</i> sp. | シワカラカサタケ属 |
| | | 48 <i>Agaricus arvensis</i> | シロオオハラタケ |
| | | 49 <i>Agaricus abruptibulbus</i> | ウスキモリノカサ |

50	<i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属	94	<i>Boletinus paluster</i>	カラマツベニハナイグチ
51	<i>Psathyrella candolliana</i>	イタチタケ	95	<i>Boletinus asiaticus</i>	ウツロベニハナイグチ
52	<i>Agrocybe erebia</i>	ツチナメコ	96	<i>Russula sanguinea</i>	チシオハツ
53	<i>Stropharia rugosoannulata</i>	サケツバタケ	97	<i>Russula pectinatoides</i>	ニセクサハツ
54	<i>Stropharia aeruginosa</i>	モエギタケ	98	<i>Russula pectinata?</i>	クシノハタケ?
55	<i>Stropharia</i> sp.	モエギタケ属	99	<i>Russula nigricans</i>	クロハツ
56	<i>Pholiota terrestris</i>	ツチスギタケ	100	<i>Russula japonica</i>	シロハツモドキ
57	<i>Pholiota flammans</i>	ハナガサタケ	101	<i>Russula integra?</i>	ヨヘイジ?
58	<i>Pholiota</i> sp.	スギタケ属	102	<i>Russula integra</i>	ヨヘイジ
59	<i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ	103	<i>Russula heterophylla</i>	ウグイスハツ
60	<i>Rozites caperata</i>	ショウゲンジ	104	<i>Russula foetens</i>	クサハツ
61	<i>Inocybe geophylla</i>	シロトマヤタケ	105	<i>Russula</i> sp.	ウコンハツ?
62	<i>Inocybe fastigiata</i>	オオキヌハダトマヤタケ	106	<i>Russula eburneoareolata</i>	ツギハギハツ
63	<i>Inocybe calamistrata</i>	アオアシアセタケ	107	<i>Russula densifolia?</i>	クロハツモドキ?
64	<i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属	108	<i>Russula delicata</i>	シロハツ
65	<i>Gymnopilus spectabilis</i>	オオワライタケ	109	<i>Russula bella</i>	ニオイコベニタケ
66	<i>Gymnopilus</i> sp.	チャツムタケ属	110	<i>Russula aurata</i>	ニンキタケ
67	<i>Dermocybe cinnamomeides</i>	オオササタケ	111	<i>Russula adusta</i>	コゲイロハツタケ
68	<i>Cortinarius purpurascens</i>	カワムラフウセンタケ	112	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
69	<i>Cortinarius armillatus</i>	ツバフウセンタケ	113	<i>Lactarius quietus</i>	チョウジチタケ
70	<i>Entoroma</i> sp.	イッポンシメジ属	114	<i>Lactarius</i> sp.	カラマツチタケ?
71	<i>Pluteus leoninus</i>	ベニヒダタケ	115	<i>Lactarius porninsis</i>	カラマツチタケ
72	<i>Pluteus atricapillus</i>	ウラベニガサ	116	<i>Lactarius piperatus</i>	ツチカブリ
73	<i>Paxillus</i> sp.	ムクゲヒダハタケ	117	<i>Lactarius flavidulus</i>	キハツダケ
74	<i>Paxillus panuoides</i>	イチョウタケ	118	<i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
75	<i>Paxillus involutus</i>	ヒダハタケ	119	<i>Lactarius akahatsu</i>	アカハツ
76	<i>Paxillus</i> sp.	ヒダハタケ属	120	<i>Clavulina rugosa</i>	カレエダタケモドキ
77	<i>Gomphidius roseus</i>	オウギタケ	121	<i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
78	<i>Gomphidius maculatus</i>	キオウギタケ	122	<i>Clavaria</i> sp.	ムラサキナギナタタケ?
79	<i>Strobilomyces confusus</i>	オニイグチモドキ	123	<i>Cantharellus luteocomus</i>	トキイロラッパタケ
80	<i>Boletellus</i> sp.	アヤメイグチ?	124	<i>Thelephora terrestris</i>	イボタケ
81	<i>Xerocomus nigromaculatus</i>	クロアザアワタケ	125	<i>Thelephora palmata</i>	モミジタケ
82	<i>Xerocomus</i> sp.	アワタケ属	126	<i>Thelephora</i> sp.	イボタケ属
83	<i>Tylopilus felleus</i>	ニガイグチ	127	<i>Phellodon</i> sp.?	クサハリタケ?
84	<i>Tylopilus eximius</i>	ウラグロニガイグチ	128	<i>Stereum ostrea</i>	チャウロコタケ
85	<i>Suillus luteus</i>	ヌメリイグチ	129	<i>Sparassis crispa</i>	ハナビラタケ
86	<i>Suillus laricinus</i>	シロヌメリイグチ	130	<i>Ramaria</i> sp.	ホウキタケ属
87	<i>Suillus grevillei</i>	ハナイグチ	131	<i>Trichaptum fuscoviolaceum</i>	ウスバシハイタケ
88	<i>Suillus bovinus</i>	アマタケ	132	<i>Trichaptum abietinum</i>	シハイタケ
89	<i>Pulveroboletus pseudolignicola</i>	ザイモクイグチ	133	<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
90	<i>Chalciporus piperatus</i>	コショウイグチ	134	<i>Trametes</i> sp.	シロアマタケ属
91	<i>Boletus sensibilis</i>	ミヤマイロガワリ	135	<i>Oligoporus balsameus</i>	レンゲタケ
92	<i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ	136	<i>Polyporus elegans</i>	キアングロタケ
93	<i>Boletus aokii</i>	ヒメコウジタケ	137	<i>Phaeolus schweinitzii</i>	カイメンタケ

138	<i>Perenniporia minutissima</i>	サワフタギタケ
139	<i>Heterobasidion insularie</i>	レンガタケ
140	<i>Gloeophyllum sepiarium</i>	キカイガラタケ
141	<i>Fomes fomentarius</i>	ツリガネタケ
142	<i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
143	<i>Daedalea dickinsii</i>	ホウロクタケ
144	<i>Phellinus punctatus</i>	チャアナタケモドキ
145	<i>Coltricia cinnamomea</i>	ニッケイタケ
146	<i>Hydnum repandum</i> ver. <i>album</i>	シロカノシタ
147	<i>Ganoderma neojaponicum</i>	マゴジャクシ
148	<i>Ganoderma applanatum</i>	コフキサルノコシカケ
149	<i>Plicatula crispa</i>	チヂレタケ
150	<i>Climacodon pulcherrimus</i>	アセハリタケ
151	<i>Scleroderma areolatum</i>	ヒメカタショウロ
152	<i>Scleroderma</i> sp.	ニセショウロ属
153	<i>Phallus impudicus</i>	スッポントケ
154	<i>Mutinus caninus</i>	キツネノロウソク
155	<i>Mutinus bambusinus</i>	キツネノエフデ
156	<i>Dictyophora duplicata</i>	マクキヌガサタケ
157	<i>Pseudocolus fusiformis</i>	サンコタケ
158	<i>Nidula niveotomentosa</i>	コチャダイゴケ
159	<i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属
160	<i>Femsjonia</i> sp.	フェムスジョウタケ?
161	<i>Calocera viscosa</i>	ニカワホウキタケ
162	<i>Pseudohydnum gelatinosum</i>	ニカワハリタケ
163	<i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
164	<i>Auricularia</i> sp.	キクラゲ属
165	<i>Scutellinia scutellata</i>	アラゲコベニチャワントケ
166	<i>Humaria hemisphaerica</i>	シロスズメノワン
167	<i>Peziza</i> sp.	チャワントケ属
168	<i>Helvella macropus</i>	ナガエノチャワントケ
169	<i>Lachnum</i> sp.	シロヒナノチャワントケ属
170	<i>Spathularia flavida</i>	ヘラタケ
171	<i>Isaria farinosa</i>	コナサナギタケ
172	<i>Isaria</i> sp.	イサリア属
173	<i>Gibellula araneorum?</i>	ギベルラタケ?
174	<i>Cordyceps tricentri</i>	アワフキムシタケ
175	<i>Cordyceps sphecocephala</i>	ハチタケ
176	<i>Cordyceps</i> sp.	冬虫夏草属
177	<i>Paecilomyces</i> sp.	マユダマタケ

第338回例会 宝塚自然休養林観察会

日 時：1996年9月23日(月)晴

68名参加

場 所：兵庫県宝塚市中山寺

(アカマツ・コナラ林)

この付近は花崗岩を主体とする地質で、概して乾燥し易く、アカマツを中心とした雑木の疎林である。例年9月の下旬は種類、数とも多くを望めないのだが、今年は8月の高温と9月の2週目からの雨と気温の低下がキノコの発生に適したようで、ヌメリコウジタケ、ダイダイグチ、モエギアミアシグチ(最盛期は過ぎていた)の大量発生を確認できた。

観察・採集の区域は、時間に制約されて休養林内の入り口程度でしたが、休養林内全域の観察・採集を、会員諸氏のさらなる継続調査に期待したいものです。(池田晴美・浜 裕夫)

採取品リスト

1	<i>Lentinus lepideus</i>	マツオウジ
2	<i>Hygrophorus russula</i>	サクラシメジ
3	<i>Camarophylus pratensis</i>	ハダイロガサ
4	<i>Lyophyllum</i> sp.	ホンシメジ近縁種
5	<i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ
6	<i>Laccaria laccata</i>	キツネタケ
7	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ
8	<i>Clitocybe fragrans</i>	コカブイヌシメジ
9	<i>Tricholoma ustale</i>	カキシメジ
10	<i>Callistosporium luteoolivaceum</i>	ヒメキシメジ
11	<i>Oudemansiella pudens</i>	ビロードツエタケ
12	<i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
13	<i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i>	クロコタマゴテングタケ
14	<i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i>	コタマゴテングタケ
15	<i>Amanita cokeri</i> f. <i>roseotincta</i>	ササクレシロオニタケ
16	<i>Amanita hongoi</i>	シロオニタケモドキ
17	<i>Amanita longistriata</i>	タマゴテングタケモドキ
18	<i>Amanita neovooides</i>	シロテングタケ
19	<i>Amanita pantherina</i>	テングタケ
20	<i>Amanita perpastia</i>	オニテングタケ
21	<i>Amanita porphyria</i>	コテングタケ
22	<i>Amanita pseudoporphyria</i>	

	コテングタケモドキ	64 <i>Boletellus elatus</i>	アシナガイグチ
23 <i>Amanita rubescens</i>	ガンタケ	65 <i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
24 <i>Amanita spissacea</i>	ヘビキノコモドキ	66 <i>Boletellus obscurecoccineus</i>	ミヤマベニイグチ
25 <i>Amanita vaginata</i>	カバイロツルタケ	67 <i>Boletellus russellii</i>	セイタカイグチ
26 <i>Amanita virgineoides</i>	シロオニタケ	68 <i>Russula cyanoxantha</i>	カワリハツ
27 <i>Amanita volvata</i>	フクロツルタケ	69 <i>Russula densifolia</i>	クロハツモドキ
28 <i>Amanita</i> sp.	オニテングタケ近縁種	70 <i>Russula eburneoareolata</i>	ツギハギハツ
29 <i>Agaricus abruptibulbus</i>	ウスキモリノカサ	71 <i>Russula emetica</i>	ドクベニタケ
30 <i>Agaricus subrutilescens</i>	ザラエノハラタケ	72 <i>Russula flavida</i>	ウコンハツ
31 <i>Stropharia aeruginosa</i>	モエギタケ	73 <i>Russula lilacea</i>	ウスムラサキハツ
32 <i>Naematoloma fasciculare</i>	ニガクリタケ	74 <i>Russula nigricans</i>	クロハツ
33 <i>Pholiota squarrosa</i>	スギタケ	75 <i>Russula rosacea</i>	ヤブレベニタケ
34 <i>Cortinarius pseudosalor</i>	ヌメリササタケ	76 <i>Russula</i> sp.	ニセクロハツ近縁種
35 <i>Cortinarius rubicundulus</i>	イロガワリフウセンタケ	77 <i>Russula</i> sp.	チギレハツタケ近縁種
36 <i>Cortinarius salor</i>	ムラサキアブラシメジモドキ	78 <i>Lactarius chrysorrhoeus</i>	キチチタケ
37 <i>Cortinarius tenuipes</i>	クリフウセンタケ	79 <i>Lactarius gerardii</i>	クロチチダマシ
38 <i>Cortinarius violaceus</i>	ムラサキフウセンタケ	80 <i>Lactarius hatsudake</i>	ハツタケ
39 <i>Cortinarius</i> sp.	フジイロタケ近縁種	81 <i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ
40 <i>Cortinarius</i> sp.	フウセンタケ属	82 <i>Cantharellus cibarius</i>	アンズタケ
41 <i>Entoloma crassipes</i>	ウラベニホテイシメジ	83 <i>Cantharellus cinnabarinus</i>	ベニウスタケ
42 <i>Entoloma cyanoniger</i>	コンイロイッポンシメジ	84 <i>Cantharellus lateritus</i>	アンズタケモドキ
43 <i>Entoloma nidorosus</i>	コクサウラベニタケ	85 <i>Cantharellus luteocomus</i>	トキイロラッパタケ
44 <i>Entoloma quadratus</i>	アカイボカサタケ	86 <i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
45 <i>Entoloma rhodopolis</i>	クサウラベニタケ	87 <i>Ramaria formosa</i>	ハナホウキタケ
46 <i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ	88 <i>Ramaria</i> sp.	キホウキタケ近縁種
47 <i>Suillus bovinus</i>	アミタケ	89 <i>Thelephora multipartita</i>	キブリーボタケ
48 <i>Suillus luteus</i>	ヌメリイグチ	90 <i>Thelephora palmata</i>	モミジタケ
49 <i>Pulveroboletus auriflammeus</i>	ハナガサイグチ	91 <i>Albatrellus dispansus</i>	コウモリタケ
50 <i>Pulveroboletus ravenelii</i>	キイロイグチ	92 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
51 <i>Pulveroboletus viridis</i>	ヒメウグイスイグチ	93 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
52 <i>Aureoboletus thibetanus</i>	ヌメリコウジタケ	94 <i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
53 <i>Boletus fraternus</i>	コウジタケ	95 <i>Onnia vallata</i>	アズマタケ
54 <i>Boletus granuloouncatus</i>	ツブエノウラベニイグチ	96 <i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
55 <i>Boletus quercinus</i>	ナガエノウラベニイグチ	97 <i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
56 <i>Boletus laetissimus</i>	ダイダイイグチ	98 <i>Lycoperdon molle</i>	コゲホコリタケ
57 <i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ	99 <i>Lycoperdon perlatum</i>	キツネノチャブクロ
58 <i>Tylopilus nigerrimus</i>	モエギアミアシイグチ	100 <i>Pseudocolus schellenbergiae</i>	サンコタケ
59 <i>Tylopilus otsuensis</i>	コビチャニガイグチ	101 <i>Scleroderma reae</i>	コニセショウロ
60 <i>Tylopilus valens</i>	ホオベニシロアシイグチ	102 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
61 <i>Tylopilus vinosobrunneus</i>	ブドウニガイグチ	103 <i>Leotia lubrica</i>	ズキンタケ
62 <i>Strobilomyces confusus</i>	オニイグチモドキ	104 <i>Galiella celebica</i>	オオゴムタケ
63 <i>Strobilomyces seminudus</i>	コオニイグチ		

第339回例会 比良げんき村観察会

日時：10月13日（日）晴

27名参加

場所：滋賀県志賀町北小松

（アカマツ・コナラ林・シイ・ウラジ
ロガンや落葉広葉樹を混在）

げんき村の事務所下の広場に集まり、世話人代表の井上圭子さんの説明を聞いた後、付近の林を各自思い思いに採集した。午後、広場のシートの上にきのこをならべ同定した。

天候に恵まれ、参加者も多く、きのこもたくさん採集できた。

天然林はきのこも多様性に富んでいることを強く感じた。（横山和正）

採取品リスト

- | | | |
|----|---------------------------------------|-----------|
| 1 | <i>Schizophyllum commune</i> | スエヒロタケ |
| 2 | <i>Hygrophorus russula</i> | サクラシメジ |
| 3 | <i>Hygrocybe conica</i> | アカヤマタケ |
| 4 | <i>Hygrocybe cantharellus</i> | ベニヒガサ |
| 5 | <i>Lyophyllum shimeji</i> | ホンシメジ |
| 6 | <i>Lyophyllum decastes</i> | ハタケシメジ |
| 7 | <i>Lyophyllum sycosporum</i> | カクミノシメジ |
| 8 | <i>Lyophyllum</i> sp. | シメジ属 |
| 9 | <i>Laccaria bicolor</i> | オオキツネタケ |
| 10 | <i>Laccaria laccata</i> | キツネタケ |
| 11 | <i>Tricholoma auratum?</i> | シモコン? |
| 12 | <i>Tricholoma saponaceum?</i> | ミネシメジ? |
| 13 | <i>Tricholoma</i> sp. | カキシメジ近縁種 |
| 14 | <i>Armillariella mellea</i> | ナラタケ |
| 15 | <i>Collybia butyracea</i> | エセオリミキ |
| 16 | <i>Collybia peronata</i> | ワサビカレバタケ |
| 17 | <i>Collybia</i> sp. | モリノカレバタケ属 |
| 18 | <i>Collybya acervata</i> | カブベニチャ |
| 19 | <i>Panellus stypticus</i> | ワサビタケ |
| 20 | <i>Mycena pura</i> | サクラタケ |
| 21 | <i>Mycena galericulata</i> | クヌギタケ |
| 22 | <i>Mycena haematopoda</i> | チンオタケ |
| 23 | <i>Xromphalina</i> sp. | ヒメカバイロタケ属 |
| 24 | <i>Callostosporium luteoolivaceum</i> | ヒメキシメジ |
| 25 | <i>Strobilurus ohshimae</i> | スギエダタケ |
| 26 | <i>Marasmius</i> sp. | ホウライタケ属 |
| 27 | <i>Oudemansiella platyphylla</i> | ヒロヒダタケ |
| 28 | <i>Gerronema fibula</i> | ヒナノヒガサ |
| 29 | <i>Amanita virosa</i> | ドクツルタケ |

- | | | |
|----|---|---------------|
| 30 | <i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i> | コタマゴテングタケ |
| 31 | <i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i> | クロコタマゴテングタケ |
| 32 | <i>Amanita virgineoides</i> | シロオニタケ |
| 33 | <i>Amanita cokeri</i> f. <i>roseotincta</i> | ササクレシロオニタケ |
| 34 | <i>Amanita volvata</i> | フクロツルタケ |
| 35 | <i>Amanita pseudoporphyria</i> | コテングタケモドキ |
| 36 | <i>Amanita japonica?</i> | ハイイロオニタケ |
| 37 | <i>Agaricus abruptibulbus</i> | ウスキモリノカサ |
| 38 | <i>Agaricus</i> sp. | ハラタケ属 |
| 39 | <i>Psathyrella velutina</i> | ムジナタケ |
| 40 | <i>Psathyrella candoliana</i> | イタチタケ |
| 41 | <i>Naematoloma fasciculare</i> | ニガクリタケ |
| 42 | <i>Pholiota lubrica</i> | チャナメツムタケ |
| 43 | <i>Hebeloma radicosum</i> | ナガエノスギタケ |
| 44 | <i>Hebeloma</i> sp. | アカヒダワカフサタケ属 |
| 45 | <i>Inocybe asterospora</i> | カブラアセタケ |
| 46 | <i>Inocybe</i> sp. | アセタケ属 |
| 47 | <i>Cortinarius purpurascens</i> | カワムラフウセンタケ |
| 48 | <i>Cortinarius aureobrunneus</i> | キンチャフウセンタケ |
| 49 | <i>Cortinarius violaceus</i> | ムラサキフウセンタケ |
| 50 | <i>Cortinarius tenuipes</i> | クリフウセンタケ |
| 51 | <i>Cortinarius anomalus</i> | マルミノフウセンタケ |
| 52 | <i>Cortinarius salor</i> | ムラサキアブラシメジモドキ |
| 53 | <i>Cortinarius nemorensis?</i> | モリノブジイロタケ? |
| 54 | <i>Cortinarius</i> sp. | フウセンタケ属 |
| 55 | <i>Gymnopilus liquiritiae</i> | チャツムタケ |
| 56 | <i>Entoloma crassipes</i> | ウラベニホテイシメジ |
| 57 | <i>Entoloma papillatus</i> | コモミウラモドキ |
| 58 | <i>Entoloma quadratus</i> | アカイボカサタケ |
| 59 | <i>Entoloma</i> sp. | イッポンシメジ属 |
| 60 | <i>Paxillus atrotomentosus</i> | ニワタケ |
| 61 | <i>Paxillus panuoides</i> | イチョウタケ |
| 62 | <i>Gomphidius roseus</i> | オウギタケ |
| 63 | <i>Suillus luteus</i> | スメリイグチ |
| 64 | <i>Suillus bovinus</i> | アミタケ |
| 65 | <i>Russula emetica</i> | ドクベニタケ |
| 66 | <i>Russula castanopsidis</i> | カレバハツ |
| 67 | <i>Russula eburneoareolata</i> | ツギハギハツ |

68	<i>Russula metachroa</i>	イロガワリシロハツ	90	<i>Albatrellus confluens</i>	ニンギョウタケ
69	<i>Russula vesca?</i>	チギレハツタケ?	91	<i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
70	<i>Russula cyanoxantha</i> f. <i>peltereaui</i>		92	<i>Coltricia cinamomea</i>	ニッケイタケ
		ウグイスタケ	93	<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
71	<i>Russula</i> sp.	ベニタケ属	94	<i>Trametes versicolor</i>	アラゲカワラタケ
72	<i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ	95	<i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアマタケ
73	<i>Lactarius volemus</i>	チチタケ	96	<i>Oligoporus tephroleucus</i>	オオオシロイタケ
74	<i>Lactarius hatsudake</i>	ハツタケ	97	<i>Tyromyces chioneus</i>	オシロイタケ
75	<i>Lactarius</i> sp.	チチタケ属	98	<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
76	<i>Cantharellus infundibuliformis</i>		99	<i>Battarrea japonica</i>	コウボウフデ
		ミキイロウスタケ	100	<i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ
77	<i>Cantharellus luteocomus</i>	トキイロラッパタケ	101	<i>Geastrum rufescens</i>	ヤブレットチガキ
78	<i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属	102	<i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属
79	<i>Gomphus pururaceus</i>		103	<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
		オオムラサキアンズタケ	104	<i>Lycoperdon pyriforme</i>	タヌキノチャブクロ
80	<i>Craterellus cornucopioides</i>	クロラッパタケ	105	<i>Lycoperdon spadiceum</i>	キホコリタケ
81	<i>Clavulina rugosa</i>	カレエダタケモドキ	106	<i>Pseudocolus schellenbergiae</i>	サンコタケ
82	<i>Clavulina</i> sp.	カレエダタケ属	107	<i>Kobayasia nipponica</i>	シラタマタケ
83	<i>Clavicornia colensoi</i>		108	<i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
		ヒメハイイロカレエダタケ (横山新称)	109	<i>Leotia lubrica</i>	ズキンタケ
84	<i>Ramaria</i> sp.	ホウキタケ属	110	<i>Cordierites frondosa</i>	クロハナビラタケ
85	<i>Plicatura crispa</i>	チヂレタケ	111	<i>Helvella macropus</i>	ナガエノチャワンタケ
86	<i>Stereum birsutum</i>	キウロコタケ	112	<i>Helvella elastica?</i>	
87	<i>Hydnum repandum</i>	カノシタ			アンボソノボリリュウタケ?
88	<i>Hydnum repandum</i> var. <i>album</i>	シロカノシタ	113	<i>Isaria takemizusanensis</i>	
89	<i>Sarcodon scabrosus</i>	ケロウジ			ミンミンゼミハリセンボン

関西菌類談話会会報投稿案内

1. 投稿は原則として本会会員に限ります。
2. 原稿の採否、掲載の順序は編集委員会の決定にお任せ下さい。
3. 編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお任せください。
4. 原稿には表題、著者名、本文の他に必要なら引用文献（あるいは参考文献）をあげてください。
5. 別紙に著者名、連絡先、住所、電話番号を書いて添付して下さい。
6. 著者校正は初校だけとし、2日以内に原稿正本とともに速達郵便で返送してください。
7. 掲載された原稿はお返しませんが、図・写真に限り著者校正のときにお返しします。
8. 写真製版料実費は著者の負担とします。
9. 原稿は会報編集長宛にお送りください。

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇ かびやきのこに関する記事、図、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇ 図は黒インクで、少し大きめ（刷り上がりの約1.5倍）にお書きください。（ボールペンは不可です）
- ◇ 原稿の分量は400字づめ原稿用紙4～5枚程度としますが、1枚でも半分でも結構です。
- ◇ 写真の掲載を希望される方は、編集委員長におたずねください。
- ◇ 原稿宛て先

〒521-1222 滋賀県神崎郡能登川町大字佐野336-16

関西菌類談話会会報編集委員長

佐々木久雄

TEL. 0748-42-2975

編集委員：岩瀬 剛二、鈴木 雄一、田中 千尋
橋屋 誠、丸西 靖恵、森本 繁雄
佐野 修治 (順不同)

表紙によせて

カンゾウタケ *Fistulina hepatica* Schaeff.: Fr.

撮影：1998年5月8日。愛知県豊田市猿投神社々叢林内、スダジイの大木の根元に4個体発生。豊田市はシイの木が少ないので、発生も少ないようで、初めて記録した記念すべき写真です。(山田 弘)

謹告

・柴田耕造氏（大阪市立大学）は、1998年6月18日にご逝去されました。
つつしんでおくやみ申し上げます。

編集後記

今年は平均気温が高く、天候不順な1年だったようです。しかし、秋に限ればきのこの発生はまざまざだったのではないのでしょうか。そのためか、新聞紙上を賑わしたきのこ中毒の記事も多かったように思います。きのこ中毒を予防するために本会々員の出来ることは何か…と、そのような記事を読むたびに思います。

さて、今号の発行も大巾に遅れたこととお詫びします。なかなかすまない発行作業を励まして温かく見守って下さった会員各位に感謝します。(佐々木久雄)

関西菌類談話会会報 No. 21 (増刊号)

1998年12月1日 印刷

1998年12月2日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒573-0017 枚方市印田町35-14

TEL. 0720-47-1386

下野 義人

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る